

自主臨床研究

腎臓・骨代謝研究グループ

高度タンパク尿を来すハイリスクの紫斑病性腎炎（HSPN）発症の 早期予測に関する研究

研究の対象	1989年1月1日から2020年5月31日までに当院小児科においてHSPNの診断にて治療を受けた3歳以上18歳未満の方で、治療前に高度タンパク尿を呈していた方
研究目的・方法	HSPNはIgA血管炎（アレルギー性紫斑病）の一症状としてみられる糸球体腎炎で、紫斑、関節痛、腹痛などのIgA血管炎の症状発症以降に蛋白尿、血尿を呈することで発症します。血尿のみの場合は予後良好のことも多いですが、1日1g以上の高度タンパク尿を呈する場合は予後不良な場合があります。一般的には、副腎皮質ステロイド薬や免疫抑制剤での治療を行います。腎生検での組織変化が強い場合にはステロイドパルス治療を加えることもあります。このように高度タンパク尿を来すHSPNの症例はハイリスク患者であると考えられ、臨床経過及び腎病理組織像により予後を予測し治療方針を決定しています。今回の研究ではIgA血管炎患者の初回入院時の臨床データをもとに、将来高度タンパク尿を来すハイリスク患者であるか否かを統計学的に予測可能か検証することが目的です。 研究実施期間：許可日～2021 年3 月31 日
研究に用いる試料・情報の種類	情報：発症年齢、性別、病歴、臨床経過、治療内容、入院の検査所見など
外部への試料・情報の提供	共同研究機関へのデータの提供は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。対応表は、当科の研究責任者が保管・管理します。
研究組織	箕面市立病院 山本威久 大阪大学 窪田拓生

お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒561-0875吹田市山田丘2-2

大阪大学大学院医学研究科 小児科学 北岡太一

TEL: 06-6879-3932

研究責任者：

大阪大学大学院医学研究科 小児科学 窪田拓生

研究代表者：

箕面市立病院 小児科 山本威久